

はじめに

本書は、大学の上級管理職にある者が、教育・学習活動でリーダーシップを発揮するための指南書である。教育・学習活動に対してリーダーシップを発揮するためには、幅広い状況下でマネジメントを行い、リーダーシップを発揮できる能力だけではなく、教育・学習活動への現代的アプローチに関する専門的なスキルや知識—教育、評価、カリキュラム提供を支援するテクノロジーの利用を効果的に行うことに精通していること等—がますます欠かせなくなっている。

本書は、個々のリーダーのためのツールとしてだけでなく、専門性開発活動を支援するリソースの必要性が広く認識されている状況にも応えるものである。本書は、学習教育局（OLT）の前身である豪州学習教育カウンシル（ALTC）が2011年に実施した「教育・学習活動の卓越性に関するリーダーシッププログラム」の取り組みの一つである。本書で我々が試みているのは、政策の背景全体に関連性をもたせつつ、長期にわたって有益なアイデアや知識を提供することである。そこでは、学生の経験に関連した現在または今後の政策課題を考慮してはいるが、だからといって、それによって制約されるものではない。本書の第1部では、リーダーが教育・学習において卓越性の向上に成功するために実施すべきことに焦点を当て、5つの基本原則および要素について列挙した。第2部は背景説明であり、5つの原則の開発に活用した根拠資料を提示し、さらに研鑽を積むために必要となる主な研究成果を紹介した入門編となっている。

本書が対象とする読者は、教育活動および学生経験のガバナンスやマネジメントを主たる職務とする筆頭副学長、副学長、学長補佐（新任者を含む）、およびこれらの職位を目指す人々である。本書が焦点を当てるのは、戦略的リーダーシップ、つまりは主要領域にわ

たって学生の学習を促そうとする教育機関の明確なビジョンと、そのビジョンを実現するための方法である。

戦略的リーダーシップとは本来、「いかに実現するか」に対する一連の正解で成り立っているわけではない。多様なテクニックが異なる状況や人々に適用されるといった性格のものである。本書は、戦略的リーダーシップのあり方を示すレシピ本ではない。むしろ、核となる原則の一覧表というべきものであり、主としてケーススタディを実施した大学や、経験を積み成功を手にした管理職を観察することから得られた根拠や事例が示されている。本書は、リーダー層が、さまざまな環境で何が有効に機能するのかという根拠に基づいて自ら選択ができるように設計されている。

本書の主張は、学生に卓越した経験を提供する上で運営責任を負っている副学部長や学科長といった管理職のやる気を刺激し、影響を与え、能力を引き出すには、強いリーダーシップが不可欠だという点にある。本書は、何が有効なのかという証拠に基づいて、大学教育を主導する仕事をめぐる肯定的見解を示している。本書に貢献していただいた大学も含め、多くの大学が、教育・学習のための戦略的リーダーシップがもたらす生産的効果を実践の場で実感している。本書によって、機関のパフォーマンスに目に見える違いを生じさせることが可能となるのである。